



福祉

うちごう

内郷地区社会福祉協議会

〒285-0005

佐倉市宮前2-13-1 よもぎの園2階

TEL/FAX : 043-486-5690

eメール : uts@catv296.ne.jp

http://www.catv296.ne.jp/~uts

事務所開設 : 火・木 10:00~15:00

～ 感染対策もつながりも～

コロナ禍での佐倉地域包括支援センターの活動

人と会えない、旅に出られない、スーパーの買い物すら気が引ける。

2020年初めからの新型コロナウイルスの流行で、私達の生活は一変しました。



佐倉包括では、地域のみなさんの相談窓口業務を始めとして、可能なかぎり、ほぼコロナ前と変わらない活動を続けています。

認知症の人を真ん中にしたオレンジカフェ、豊かで健康に年を重ねるためのとしとらん塾、地域にお邪魔しての出前講座などがあります。コロナ前と比べ出席してくださる人は少なめですが、元気に開催しています。

専門職向けの研修会や会議はマスク、手洗い、検温などの感染対策に最大限の注意を払ったり、また慣れないリモートも使いながら開催しています。

一方で医療に関する相談や病院などからの相談が増え、比較的重くなってからの相談が多くなりました。感染を心配して受診を控えた結果、症状が進行してしまった人、外出を控えて認知症が進んだ人、体力がおちてしまった人も少なくありません。精神的な不安を訴える人も多いです。

以前のように、自治会や地区社協などのイベントでお会いして、ごく初期の段階でつなげることができないことも、一因であると思われます。



みなさんの周りに、少しでも困った様子の方がいましたら、ぜひ佐倉地域包括までご連絡ください。感染対策同様、人と人とのつながりを大切にしながらの支援を心がけたいと思います。

佐倉地域包括支援センター

住所:佐倉市宮前 3-12-1 野口ビル 1階

電話:043(488)5151



令和3年度 活動報告

日ごと暖かさを感じるこの頃ですが、皆様にはお変わりなくお過ごしのことと推察申し上げます。新型コロナもオミクロン株と変異し、全国的な拡大となっており、いつ収束するか不透明な状況が続いております。このため市社協からは3月末までは会議及び行事等の人が集まる活動を自粛するよう要請がありました。内郷社協としましては、この点を考慮し令和3年度の事業報告会を昨年に引き続き書面による報告とさせていただきますので、ご了承ください。

一昨年来のコロナ感染のため、福祉委員の皆様とは一堂に会する機会もなく不本意な結果となっております。なお4月から始まる新年度の事業活動、福祉委員会等につきましては理事会で協議の上、計画を進めてまいり所存です。

内郷地区社会福祉協議会会長 大谷 吾朗

高齢者事業部

【佐倉市補助事業】

「おじいちゃん・おばあちゃんに
ありがとうの気持ちを伝えたい事業」
11/2 から福祉委員が
80歳以上の方にマスクの配布



【高齢者食事も】年2回（夏・冬） 中止

【白翠園支援事業（敬老事業）】 中止

広報事業部

【広報誌「福祉うちごう」の発行】

年3回（発行部数各2,000部）

【広報誌広告】

広告掲載協賛を4企業、4福祉施設、
1非営利団体に依頼し広告収入を取得

【情報収集】

市社会福祉協議会・内郷小学校・福祉施設・
地域行事・交流会・認知症予防運動など取材



研修事業部

【地区歓談会】 中止

【認知症予防運動】再開 令3年5月～令4年3月

- ・宮前3丁目会場 36回/約420名
- ・飯田柏葉会場 36回/約270名
- ・岩名・高座木会場 37回/約280名
- ・宮前ローズタウン会場 40回/約780名

令3年10月～令4年3月

- ・山崎・下根会場 17回/約250名
- ・大佐倉会場 18回/約210名



地域事業部

【住民交流の推進支援】

- ・ラジオ体操（宮前中央公園）の運営と支援
土日祭日・雨の日・正月三が日を除く毎日
- ・山崎交流支援・宮前ローズタウン交流支援

【内郷小学校 PTA 行事支援】

- ・通学路整備支援
- ・ベルマーク収集8,651点

【ふくしまつり】 中止



内郷小学校

令和4年度 新1年生22名

<入学おめでとう>

宮前1丁目 4名 宮前2丁目 6名 宮前3丁目 5名
山崎 3名 飯田 2名 飯野 1名 岩名 1名

おともだちがたくさんできますように！



高品質
Everyday Low-price
京成佐倉店
●通常営業時間
AM9:30~PM9:45
TEL 043(486) 2525(代)

社会福祉法人 愛光
ワークショップかぶらぎ
名刺・封筒・チラシ・ポスター・シール等
各種印刷承ります

TEL: 043-497-6101
MAIL: kaburagi-wc2@rc-aikoh.or.jp

福祉と医療の連携で地域の方の在宅生活を支えます
生活クラブ風の村さくら
総合受付☎:043-484-2106
◆お気軽にお問合せ下さい
生活クラブ風の村

取材

美味しい本当の味を!!

寒さが厳しくなる十一月の下旬、大佐倉で女の人を中心に味噌造りが始まります。

昭和58年頃から始まった味噌造りは、40人程の人が4組に分かれ、前の晩から糶を仕込み、糶が出来てから味噌造りになります。大豆にも黒豆、青豆、農協国産豆など色々あり、出来た時の味にも違いがあります。

造り始めたきっかけは弥富に出来た『農村婦人の家』で、味噌造りを習ったことです。

以前は寒仕込みといい、真冬に造り始めていました。寒仕込みは雑菌を増やさない為にです。

一樽は大豆7.5kg+米7.5kg+塩3.25kgで、味噌が23〜24kgできます。茹でた大豆をひとはだ(35度ほど)に冷ましたものに糶菌、塩を混ぜ、ミキサーで細かく砕き味噌玉を作ります。味噌玉を作る時に力を入れて投げ付けるとパシッ!と気持ちのいい音がします。空気を抜く為にするので、大変な力を使います。

こうして味噌玉を作り、樽に寝かせて待ち、夏の土用を越し九月になると食べられるようになります。各家庭で使う量により、各組の造る量もそれぞれです。

「小学校の給食でもこの味噌を使って食べてくれるようになるのが嬉しいですね。」と話されています。

毎年、他の地域からも分けて欲しいという声があります。



取材

宝珠院で豆まき! ~この1年が無事に過ぎますように!!~

コロナ禍で2年ほど中止されていた豆まきが、2月3日14時から大佐倉駅北口の近くにある宝珠院で行われました。お寺の本堂では緑の半纏を着た20人余りの年男、年女、総代さんを中心に太鼓と読経で厄払いをうけていました。その後、本堂の入り口から年男の方々の豆まきが始まり、集まった子供や地域の方たちが袋を片手に楽しそうに豆拾いをしていました。

このお寺からは毎朝7時になると鐘の音が聞こえてきます。



節分とは、季節を分けるという意味で立春・立夏・立秋・立冬の前日を表す言葉です。「季節の変わり目には、邪気が芽生える」と考えられ、一年の始まりともいえる立春の前日に悪霊祓いをすることで、一年間の無病息災や国家繁栄を祈ったのです。



《豆まきの意味》 豆(まめ)は語呂合わせで「魔目(まめ)」であり、「魔(の)目」に豆を投げつけて魔を滅する「魔滅(まめ)」に通じ、これによって邪気を払い、1年の無病息災を願うとされています。使う大豆は煎るのが作法で、これも「射る」の語呂合わせで、「魔目を射る」に通じるともいわれています。煎り豆を使用するのは、1年の厄災を払った豆から「魔芽(災難の芽)」が出ないようにするという意味もあるようです。そして、鬼が活動するのが夜だと考えられ豆をまくのは節分の夜の夜が良いとされています。厄除けに年齢プラス1個の豆を食べると良いとする風習などもあります。

佐倉カントリー倶楽部
佐倉市飯田 1000 番
Tel: 043-485-0311
Fax: 043-485-5188

地域の交通安全とともに
公認 佐倉自動車学校
TEL.043-485-1558

佐倉白翠園
特養(多床室型、ユニット型)、デイ、
シヨート、居宅 TEL 043(486)8941
はくすい保育園
子育て支援センター、病後児保育
TEL 043(483)8941

佐倉市民の森 と “おわば様”

土浮の台地部分に広がる佐倉市民の森は、東西約600m南北約800mでおおよそ25haの広さがあります。区域内の倒木などは整備されていますが、雑木林の多くは自然のままに様々な鳥や昆虫の棲みかとなっています。市民の森を南北に貫く幅3.5mほどの道は昔からある道で、江戸時代には土浮から船で対岸の瀬戸に渡り常州・野州・奥州各方面と佐倉藩を結ぶ重要な道でした。



市民の森を通る古道



おわば様

その古道から20mほど西に入った陶芸舎近くの森に小さな祠があります。「おわば様」と言われ風邪の神様として祀られています。伝承によると、昔皇族のお姫様が男を好きになったが身分の違いから許されず、男を連れて東国に逃れこの地に隠れていたが、咳をしてしまい追手にみつかり二人は殺されてしまった。村人は哀れに思い祠を建てて風邪の神様として二人を祀ったとのこと。

これから新緑の時期になり森林浴には絶好の季節となります。伝承に思いを馳せながら古道を散策してみたいはいかがでしょうか。

歴史散策

佐倉茶発祥の地：飯野町



幕末の文久2(1862)年、幕府は各藩による沿岸防備の強化や財政負担軽減などのため参勤交代緩和令を出し、これにより佐倉藩も翌年以降江戸詰め藩士達が引き揚げ来て、飯野・江原・将門などに土地を分与されました。飯野町では49名の藩士が移住し、自ら開墾し茶の栽培などを行い域内には共同製茶場も作られました。

明治4(1871)年の廃藩置県で失職した旧藩士の授産のため、新たな産業が企図されました。その一つが飯野町での経験をもとに、倉次亨(くらなみ・とおる)らが興した製茶業です。

倉次ら旧藩士は、明治4年製茶組合「佐倉同協社」を結成し、旧上勝田村富山(現八街市)の土地を開墾し茶の栽培を始めました。多くの苦難を乗り越え明治8年に最初の茶摘みを行ったのを端緒に、翌年には佐藤百太郎(佐倉順天堂2代目・佐藤尚中の長男)によりニューヨークまで輸出されることになりました。佐倉茶は大



輸出時に使われた佐倉茶のラベル

いに発展し、全国一の静岡茶と並び称されるほどになり、最盛期には生葉生産量120トン、社員489名という規模まで成長しましたが、災害に見舞われるなど不運も重なり、大正9(1920)年に佐倉同協社はその歴史を閉じました。

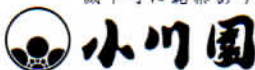
倉次亨らが初めに茶の栽培を行った飯野町では、小川園が佐倉茶の思いを次世代に伝えたいという願いから、平成18年より茶の栽培を行っています。



飯野町にある小川園の茶畑

良いお茶・良い海苔・良い贈り物

城下町に銘茶あり



千葉県佐倉市城内町257-16
☎043-484-0065(代)



NPO法人佐倉みどりネット

里山保全整備、ホテル再生、カブト虫飼育
農業・自然体験、キャンプ、こどもの遊び場
285-0004 佐倉市岩名1020
フォレスト・イン岩名
Tel&Fax 043-486-4468
E-mail: goro@coffee.ocn.ne.jp
http://www.sakura-gureennet.com

Jalux ソルシアス佐倉

サービス付き高齢者向け住宅

京成佐倉駅から徒歩4分
訪問介護事業所・居宅介護支援事業所併設

0120-83-7070

入居相談受付中！お気軽にお問合せください